

しゅんの女ひと

(125)



昨年12月29日、長野市エムウェーブで行われた1000メートルで3位に入賞。五輪代表を確実にした高木選手。(写真提供、北海道新聞社)



昨年7月、カルガリーで行われた夏の大会「2009サマークラシックスピードスケート競技会」に参加後、訪れた湖「レイクルイーズ」の絶景に感激する高木選手

自分らしく最高の滑りが
できるよう、頑張りま〜す！

間もなく開催されるカナダバンクーバー冬季五輪。早々と決まったスピードスケート女子選手団の中に、若鮎のようにキラリと輝く中学生、高木美帆さんの名前がありました。地元明治北海道十勝オーバルで練習に汗を流し、帯広市役所市民ホールの応援セレモニーに駆けつけた高木選手に、決意の一端を披露して頂きました。

中学生五輪代表に拍手！

1月6日正午。「祝・バンクーバー冬季オリンピック出場！ 帯広・十勝から応援しています！」と書かれた、横断幕が掲げられた市役所1F市民ホール。

この日、その横断幕の下に集まった十勝、帯広にゆかりがあるスケート選手は5名。やがて、マイクの前に立つて「バンクーバーでは、自分らしく最高の滑りができるように頑張りま〜す！」と、透き通るような声で高木選手が決意を述べると、大勢集まった報道陣、市民から大きな拍手。

高木選手は昨年12月、長野市エムウェーブで行われた、スピードスケートバンクーバー冬季五輪代表選考会で1000メートルで3位、1500メートルで優勝し見事五輪代表入りを決めました。400メートルリンクで争うスピードスケートでは日本初の中学生五輪代表です。この知らせを聞いて「とにかくびっくりしました。これからどうなるのかしら…」と思いついて話す高木選手の目は輝きを増していました。



1月6日、市民ホールに勢揃いした代表選手と関係者。(前列右から土井慎悟、平子裕基、杉森輝大、高木美帆、石澤志徳の各選手。後列右から小笹勲雄帯広市教委生涯学習部長、細川吉博開西病院理事長、萩原一利帯広スケート連盟会長、砂川敏文帯広市長、本迫哲帯広市教育長、波岡和昭帯広市スポーツ振興室長)

スケートは私の宝物

高木選手は現在、幕別町立札内中学校の3年生で、夏はサッカー部で男子選手に交じって、堂々FWとして活躍。昨年は中体連十勝地区予選で勝ち抜き、全道大会出場に貢献しました。

スケートは「5、6歳の頃からリンクで滑っていました」と言い、そのスケートについては「小さい頃から付き合いの長い友達みたいな感じ。私にとっては大切なことを教えてくれる、最も大事な宝物です」と、さすが大物の存在感がちらり垣間見えました。

その高木選手に「座右の銘は」と尋ねると「一球入魂かな…」と返ってきました。「一つひとつの事に対して、全力でぶつかって行きたいから…」と若いながらも確信をもつてのひと言。

純情可憐な瞳を輝かせ、「若さと元気で頑張ってきますので、皆さん応援ヨロシクお願いします！」と読者への伝言も忘れない美帆さん。編集部一同、「ガンバレ！」とエールを送ります。

(取材・文／成瀬 登 撮影・菅原正嗣)



スピードスケート初の中学生五輪代表

高木 美帆さん(15)

